

令和7年5月 教育委員会定例会（意見交換）

開催日時：令和7年5月27日（火）

テーマ：第3期近江八幡市教育大綱の理念、3つの柱について

【意見交換等】

○教育長

第3期近江八幡市教育大綱の策定について、2回目の意見交換の場を持たせていただきたい。前回は、企画課より概要説明があったが、その後委員の皆様のお考えになられていることについて教えていただき、この議論を深めていきたいと思っている。6月上旬には総合教育会議も予定しているので、現段階における皆様方のご意見をお願いしたい。

お手元に教育大綱をお持ちなので、例えば理念のところや柱のところなど、そういうところも含めて思っておられることがあったらご発言願いたい。現時点で大綱の改定にあたって各委員のお考えがあれば、意見交換の場とさせていただきます。

もちろん、次のステップでは、これまでの取組の成果や事業評価のようなデータ的なものも提示して、それに基づいたご意見を頂戴したいが、現時点では大まかな普段感じておられることなど、自由にご意見をいただければと思う。

○大更委員

なかなか大きく変更することではないと思っている。

例えば「施策6 情報化・グローバル化に対応した教育の推進」とあるが、5年前のことであり、既にスマートフォン等が普及し、もっといろいろな形で情報化が大事な部分になっているので、大綱への表現はこのままで良いのかもしれないが、中身は以前に比べてもう少し進んだ形で考えていかなければならない。

5年間の社会情勢や教育環境の変化を反映し、「ここを重点的にしていきたい」ということが分かるような、スローガンのような言葉も欲しい。3つの柱、5つの目標、19の施策があって、「この内容について、このようなことに取り組んでいこう」、「このようなことをやっていこう」というのは、教育現場であったり教育委員会事務局であったり、どちらかというところと教育行政を中心にしてしっかりと頭の中に入れておけば良いが、これを多くの市民に知っていただいたり、啓発したりする際には、ダイジェスト版のようなもので、分かりやすい表現で示せば良いと思う。

重森委員が前回「もう少し分かりやすい言葉はないか」と意見されていたが、

教育現場においてはこれでいいのかもしれないが、おうちの方が読まれたときに分かりにくい。これはこれで大事だが、ダイジェスト版のように分かりやすいものがあれば良いと思う。

○教育長

総合教育会議において、どのような議論がされているのかを市民の方にも関心を持っていただく方法もあると思う。でき上がったものも、市民に分かりやすくお届けするダイジェスト版のような分かりやすいものがあれば良いというご意見もおっしゃるとおりだと思ふ。

○大更委員

滋賀県教育委員会もリーフレットを出されている。私も分厚い冊子より概要版が分かりやすいので、そちらを読んでいる。

幼保の保護者も一緒に育っていければと思っている。現在の大綱にも書かれていて、3本柱のうち「親が育つ」とあるが、その親御さんが読まれたときに、「こういうことを皆で進めようとしているのか」と分かっていたるように、概要版のようなものが必要だと感じた。

○重森委員

教育大綱や教育振興基本計画のようなものをしっかりと読むのは近江八幡市が初めてなのだが、親が頑張ったことは、どこに指標として反映されているのか、なかなか読み切れない。書いてあることは、教育委員会が頑張ったことと、それを評価指標としてどうかという視点が前面に出ている。「親が育つ」、「市民（人）が育つ」という部分には、「自分たちが頑張ったから、こうなった」という、何か指標の視点を必要があるのではないかと思ひながら見せていただいた。例えば、教育振興基本計画の62ページに、「園所に通う就学前の子どもに1日10分以上読み聞かせをした家庭の割合」程度のことは書いてあるが、他のところは全部「教育委員会がこれだけ頑張って子どもをどうした」という数値でしか表されてない。主語が「親が」や「社会が」になったときに、どういう指標で示すのかという視点もあった方が頑張る気になれる。その辺りが読んでいて難しいと思った。

○教育長

「子どもが育つ」という柱の1つ目は、結構真剣に施策として打ち込んでいるが、「親が育つ」、「市民（人）が育つ」という部分は、施策として十分真剣には打ち込めていない。つきつめられていない。これまではそういう濃淡があったのではないか。3本柱のうち、「子どもが育つ」の部分は焦点がしっかりと当たっているが、それ以外は少し緩い。その辺りをしっかりとやっていく必要があるのではないかと思ふ。それを教育大綱でどう表現するか、その辺りも

検討する必要があると感じながら聞かせていただいた。

○西田委員

親と地域が育たなければ子どもは育たないという思いを持っている。とはいえ、親に対して、地域に対して、何か施策的なものに取り組めているかというところ、やっているとしても評価項目がないとなると、「やっているけれど、全然評価してもらえない」のような話になって、やったものの「もっと頑張ろう」という思いになれないのではないかと。そういう項目があれば、より良い方向へ向かうのではないかと。

○教育長

何かほかの視点からのお考えはないか。

教育大綱の議論を進めていく中で、滋賀県子ども基本条例のようなものを視野に入れて進めていくが、どのように子どもにかかわってもらえるのか。検討・策定のプロセスのいずれかの段階で、子どもの意見を何らかの形で広く聴く場が必要かと思っている。そのような観点から何かご意見はないか。

○大更委員

子どもが自分の思いや考えを外に表現していく、意見として出していくということは、なかなか難しいと思う。学校の中で意見を表現していくような機会があれば、なお良いのではないかと。こういうところで学べたらいいなという子どもの思いを受け取って、それを大綱にどう入れていくのが良いか。

子どもも頑張ってきたことがあると思うので、そこも何らかの表現で盛り込めれば、そういうことも大切なのではないかと。

○教育長

場違いの話をするかもしれないが、ビブリオバトルのような形ができればと思ったりもする。例えの話であってイメージだが、我々が検討している中間取りまとめを投げて、子どもたちがそれぞれ自分の読んだ感想・意見を発表してもらおう。オーディエンスの生徒と意見交換してもらおう。何かそういう場ができたなら良いのではないかと。何らかの意見交換が子どもたちでもできれば、より良いと思っている。

本日は、手元に具体的なデータ等がない中での意見交換の場であったので、ご意見が出しづらいことがあったかと思うのでお詫びしたいと思うが、6月から総合教育会議が本格的に、数回に分けて重ねられるので、きちんとご議論いただけるような教育委員会としてのデータもご用意した上で、第1回の総合教育会議に臨んでいただけるように準備を進めさせていただくので、よろしくお願いしたい。

今日のところは、意見交換はこれまでとさせていただきます。